

外科専門研修プログラム

外科共通コース

(1) 新専門医制度

大阪大学では、平成 30 年度より外科専門医を取得することを目的とする外科専門研修プログラムを実施しています。本プログラムでは、大阪大学附属病院を基幹施設として外科学講座の関連 65 施設と連携しています。本プログラムでは、400 人以上の専門研修指導医および年間 40000 件以上の NCD 症例（外科系医療の現状を把握するため、日本外科学会を基盤とする外科系諸学会が協力して作成するデータベース「National Clinical Database」）を有するハイ・ボリュームかつ多様性に富んだプログラムであり、サブスペシャリティ専門分野、手術技術、研究活動などで各個人が描く将来像を実現できる修練の機会を提供しています。基本的には、できるだけ希望に応じてフレキシブルに研修施設を決定していますが、症例経験に偏りがでないよう基幹病院を軸としてグループ内施設間をローテーションし、様々な領域の症例を効率よく経験できるように対応しています。希望の外科専門領域（サブスペシャリティ）に合わせて、大学や連携施設での修練を計画することも可能です。

本プログラムで修練を行う医師は、日本外科学会の専門医研修プログラムへの登録を行い、外科専門研修を開始することが必須です。

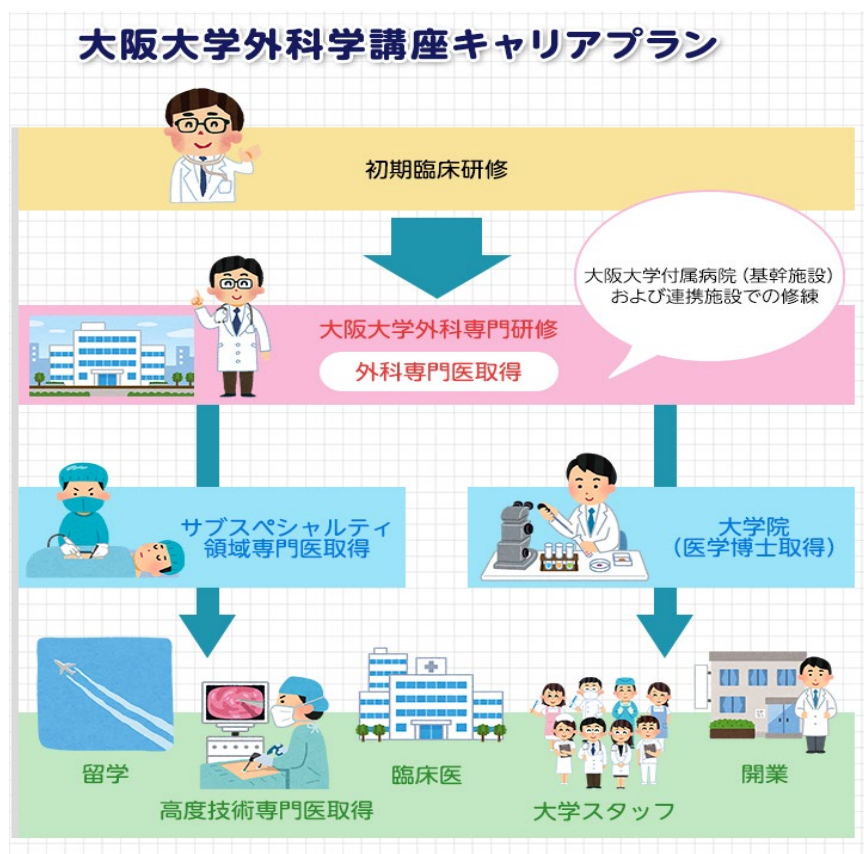
またこの外科共通コースは、サブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科）、またはそれに準じた外科関連領域の専門医取得へと連動しています。

(2) 外科共通コースの全体像

外科専門医を取得するために、初期臨床研修終了後、上記の外科専門研修プログラムへ登録を行います。この登録後に、後期研修（外科専門研修）が開始となります。この外科共通コースは原則 1～2 年間ですが、この期間に専門医に必須のサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科）および外傷などの外科

関連領域の研修を経験でき、それぞれの領域の専門医（サブスペシャリティ）取得コースへの連動も可能です。サブスペシャリティとして心臓血管外科専門医コース、呼吸器外科専門医コース、消化器外科専門医コース、乳腺専門医コース、小児外科専門医コースがあります。外科共通コース開始後に速やかに外科系の各サブスペシャリティコースを選択することで、外科専門医に引き続き、サブスペシャリティ領域の専門医の取得が可能となっています。

なお、救急医志望などの準外科関連領域をめざす専攻医は、予定していた領域などへ戻り準外科関連領域の研修を継続することになります。



(3) コースの概要

コース名： 外科共通コース			
1. 診療科名 : 外科 2. 指導者数 : 総数451名（各施設3～16名） 3. 目 的 : 一般・消化器外科の基礎的な研修ならびに外科専門医取得に必要な各分野の手術症例の経験 4. 受入人数 : 外科共通コース受入人数 20名、 総数、最大70名/年 5. 研修期間 : 1～2年			
外科学講座連携施設			
りんくう総合医療センター 市立豊中病院 大阪急性期・総合医療センター JCHO 大阪病院 堺市立総合医療センター 大阪医療センター 大阪警察病院 大阪国際がんセンター 大手前病院 大阪労災病院 河内総合病院 桜橋渡辺病院 市立東大阪医療センター 市立吹田市民病院 八尾市立病院 箕面市立病院 愛染橋病院 済生会千里病院 済生会富田林病院 市立貝塚病院 市立池田病院 日本生命病院 医誠会国際総合病院 彩都友誼会病院 守口敬仁会病院 清恵会病院 多根総合病院 JCHO 大阪みなと中央病院 大阪中央病院 豊中敬仁会病院 大阪市立総合医療センター 八尾徳洲会総合病院 大阪母子医療センター 森之宮病院 国立循環器病研究センター 吹田徳洲会病院 大阪南医療センター	(大阪府) 以下、上記に同じ	近畿中央呼吸器センター JCHO 星ヶ丘医療センター 大阪刀根山医療センター 大阪はびきの医療センター ベルランド総合病院 耳原総合病院 大阪プレストクリニック 関西メディカル病院 厚生会第一病院 中河内救命救急センター 友誼会総合病院 関西ろうさい病院 東宝塚さとう病院 兵庫県立西宮総合医療センター 川西市立総合医療センター 市立芦屋病院 市立伊丹病院 川崎病院 尼崎中央病院 隈病院 兵庫医科大学病院 近畿大学奈良病院 紀南病院 福井循環器病院 名古屋徳洲会病院 心臓病センター榊原病院 福山医療センター 徳島大学医学部附属病院 三重大学医学部附属病院	(大阪府) 以下、上記に同じ (兵庫県) 以下、上記に同じ (奈良県) (和歌山県) (福井県) (愛知県) (岡山県) (広島県) (徳島県) (三重県)

(4) コースの実績

大阪大学医学部附属病院および外科学講座関連施設は外科学会認定施設であり、大阪大学を基幹施設として連携することで、効率よく外科研修を行うことができ、下記の専門医取得に必要な症例数の手術経験が可能です。また、教育行事の開催、研究発表および学会の研修行事などへの参加も積極的に行われています。2 ないし 3 年目以降は、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科のいずれかのコースに進み、外科専門医に引き続きそれぞれの外科のサブスペシャリティ領域の専門医取得のための研修を行います。

(5) コースの指導状況

各施設とも複数の外科・各外科系科サブスペシャリティの専門医・指導医が配置されており、大阪大学外科学講座と緊密に連携して、研修状況の調整が必要に応じて行われます。

(6) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医
資格要件	・修練開始登録後満 3 年以上経た段階で、筆記試験を受験する。 ・従来日本外科学会が面接試験で行っていた専攻医の医師としての適性や人格の評価を、プログラム統括責任者の責務とし、筆記試験のみが行われる。 1) 診療経験 (1) 350 例以上の手術手技を経験 (NCD に登録されていることが必須)。 (2) (1) のうち術者として 120 例以上の経験 (NCD に登録されていることが必須)。 (3) 各領域の手術手技または経験の最低症例数。 ①消化管および腹部内臓 (50 例) ②乳腺 (10 例) ③呼吸器 (10 例) ④心臓・大血管 (10 例) ⑤末梢血管 (頭蓋内血管を除く) (10 例) ⑥頭頸部・体表・内分泌外科 (皮膚, 軟部組織, 顔面, 唾液腺, 甲状腺, 上皮小体, 性腺, 副腎など) (10 例) ⑦小児外科 (10 例) ⑧外傷の修練 (10 点) * ⑨ 上記①～⑦の各分野における内視鏡手術 (腹腔鏡・胸腔鏡を含む) (10 例) 注 1. 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例 (NCD に登録されていることが必須) は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができる (ただし、加算症例は 100 例を上限とする)。 注 2. 術者として独立して実施できる一定数は設定しない。 注 3. * 体幹 (胸腹部) 臓器損傷手術 3 点 (術者), 2 点 (助手) 上記以外の外傷手術 (NCD の既定に準拠) 1 点 ・重症外傷 (ISS 16 以上) 初療参加 1 点 ・日本外科学会外傷講習会受講 1 点 ・外傷初期診療研修コース受講 4 点 ・e-learning 受講 2 点 ・ATOM コース受講 4 点 ・外傷外科手術指南塾受講 (日本 Acute Care Surgery 学会主催講習会) 3 点 ・日本腹部救急医学会認定医制度セミナー受講 (分野 V (外科治療) -C. Trauma surgery) 1 点 2) 業績 所定の学術集会または学術刊行物に、筆頭者としての研究発表または論文発表を所定単位。

【学会の連携等の概要】

外科専門医は心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科および小児外科などの関連外科（サブスペシャリティ）専門医を取得する際に必要な基盤となる共通の資格であり、広告することができる医師の専門性に関する資格の一つとして、厚生労働省に認可されている。



* 大阪大学外科専門医プログラム説明会（例年 6 月に開催）の様子

サブスペシャリティ領域の

心臓血管外科専門医

呼吸器外科専門医

消化器外科専門医

乳腺専門医

小児外科専門医

に関しては、それぞれのコースを参照する

問い合わせ先

■大阪大学医学部附属病院 外科学講座

担当者 多根井智紀

 ttanei@onsurg.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.surg.med.osaka-u.ac.jp/>